

(6) 2018年(平成30年) 10月18日(木曜日)

私にも二人の子供がいます
が、いつの間にか彼らも大
人になりました。今でも思
い出すことですが、彼らが幼
い頃、私は二人を見ながら、
「もし私の両親が私がこの二
人を愛するように私を愛して
くれていたのであれば、それ
は何と感謝なことであろう
か」と、親の有難さをしみじ
みと思つたものです。まさに
『子を持って知る親心』で
しょうか。

親は自分の子供を可愛がっ
て育てます。それが親の本能
です。子供のためにと、子供
を厳しく育てる親もいれば、
子供を溺愛する親もあります。
それもまた親心というもので
しょう。しかし、いざれにし
る子供は親の願ひ通りにでは
なく、育てられたようにしか
育ちません。

たえば、幼い時から子供
に高級ブランドばかりを与え
る親がいます。すると高級ブ
ランドは良いものであり、安
いものは良くないものである
というイメージが幼い時から
子供の心の中に刷り込まれて
いきます。

子供に苦勞をさせたくな
い、大変な思いをさせたくな
い、というのも親心です。風
邪を引けば、親は子供をすぐ
病院に連れて行きます。咳を
すれば、すぐに薬を飲ませま
す。欲しいものがあれば、で
きる限り買ってあげようとす
ます。現代の出生率の低さ
は、生まれた子供には十分な

教育を与え、経済的な豊かさ
を味わせてあげたいという
思いと無縁ではないかも知れ
ません。

しかし、残念ながら、甘や
かされた子供は親心を感謝す
る人間には育ちません。親心
を身にしみて感じるには、苦
勞をし、苦しみの体験を積み
必要があります。甘やかされ
た子供は、やがて苦しみの人
生を歩むことになります。が、
本人はなぜ苦しみの人生を歩
むのか、その心のからくりが
分かりません。

今の世は、『楽して生きた
い』という風潮があり、苦し
みに耐える力が阻害されてい
ます。特に日本では、子供は
小さいときから受験競争の中
に巻き込まれ、勉強の苦勞は
するものの、それは希望校に
入学することを目標にした苦
勞であり、受験から解放され
たとたんに勉強をしなくなり
ます。それは将来に目標がな
いからです。

人生において、将来に確か
な目標を持つということは大
変重要なことです。目標達成
は簡単ではありませんが、忍
耐をもって進み続ければ必ず
目標に近づくことができます。

昔は、松下幸之助のよう
に、幼いときから奉公に出
て、苦勞して仕事を身に付
け、大成した人が大勢いまし
た。アメリカでも、エジソン
やリンカーンは子供のときか
ら苦學をして大成した人物で
す。昔に遡るほど、人々は子

子を持って知る親心

鶴田 健次

南加キリスト教会教会連合

供の頃から苦勞を重ね、人生
を練つたものです。豊臣秀吉
などは、そのいい例です。

今の時代、中学を出て働く
人は落ちこぼれの人間とみな
されます。奉公に出る人間は
皆無です。もちろん学位を取
得することも必要ですが、大
成するために本来に必要なこ
とは自立心と忍耐と仕事力、
そしてVISIONです。だからこ
そ、子供には苦勞をさせ、自
立心と忍耐を持たせるための
親業が必要なのだと思いま
す。

そして、さらに大切な親業
は、自分自身の生き様を通
して、子供が眞の神を知る
よう導くことです。「わが子
よ、神を恐れよ。神の命令を
守れ。これが人間にとつてす
べてである」(伝道の書12…
13)

(ラスベガス日本人教会牧
師)